

医療事故はなぜ起きるのか

CTG判読 共通言語化を図ろう



江戸川大学メディアコミュニケーション学部
教授 隈本邦彦先生

参加者アンケートより

2つのテーマともに「大変満足であった」と評価は高かった。

隈本先生の医療事故のお話も講義を受け医療事故予防のための必要な知識を得た安全管理業務の参考にしたい。

産科医療補償制度の委員もされていることが分かり次回は産科に特化した内容を聞きたい等の意見があった。

学生からはインシデントを振り返ることの重要性を学び就労にあたりたいとの学びがあったようだ。

CTG判読では香川先生の口調や説明がとてもわかりやすかった、実際のCTGを見ながら判読が臨床で役に立った。

原因と結果について時間があると良かったという意見もあった。

今回のテーマは臨床に即した内容で専門職として興味が高い研修会であったことは助産所部会としても満足であった。

今回の参加者は44名、助産所部会以外に勤務助産師も半数で学生の参加もみられた。

ジャーナリストの隈本先生による「医療事故はなぜ起きるのか」というテーマで事故はいつ発生するか分からない、事故の発生原因は思い込み、上司や医師に気兼ねして言えない、上司は聞く耳を持たないなどが理由で事故に繋がる。

報告、連絡、相談の関係性を常に良くしておく「事故が起こったら嘘をつかない！正直に答えることが大切です」と隈本先生からのメッセージが伝わってきた内容でした。

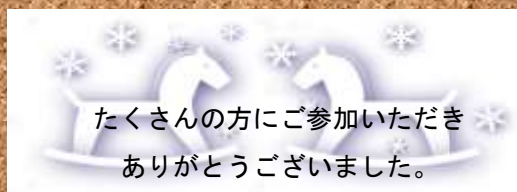
「CTGの判読・共通言語化を図ろう」香川先生は今回で4回目の継続研修でした。モニター判読内容も微妙に変化していました。助産所の実例12症例の判読解説も分かりやすく説明していただき参加者からはもう少し時間があればよかったと意見もあり次年度の課題かなと感じた。

搬送基準レベルでモニター所見」から「レベル3は要相談、4、は搬送です 5は緊急搬送です」と搬送のタイミングを明言していただき参加者からの満足度も高く臨床で役立てて頂くのではないかと感じました。

(主催者より)



関東労災病院 産婦人科部長
香川秀之先生



たくさんの方にご参加いただき
ありがとうございました。